

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501155		
法人名	医療法人愛全会		
事業所名	グループホームハートハウスもいわした		
所在地	札幌市南区南32条西8丁目1-15		
自己評価作成日	令和5年5月6日	評価結果市町村受理日	令和5年6月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501155-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ数年間はコロナウイルス感染対策でオレンジカフェが出来ていませんでしたが今年度からは開催予定です。地域との関わりの機会も多く持ち近くに公園もあり子供たちの野球チームの練習している時光景を見たり夏には町内会の盆踊りにこえを掛けて頂き参加もしていました。ホーム自体は入浴にリフト浴を備えており重度化してもゆったりとした環境でお風呂を楽しんで頂けます。看護師も常勤しており安心して住んで頂いています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年5月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路やバス停から数分と利便性が高く、近くには子供達が集い、桜も観賞できる公園があり、利用者が地域に親しみながら生活できる環境になっている。長期に渡るコロナ禍の中で、ユニットごとに目標を掲げ、笑顔で安心してその人らしい生活の継続に取り組んでいる。外出や交流制限に代え室内レクの充実を図っている。七夕では、短冊に思いをしたためて飾り、夏祭りは久しぶりに両ユニットの利用者が揃い、輪投げやヨーヨー釣り、出店メニューを味わっている。また、日常でも、ドッグセラピーやリハビリ指導による散歩や体操、皆で貼り絵の制作、家事仕事の役割をお願いするなど、一人ひとりの思いに沿った過ごし方を大切にしている。家族には、利用者の様子や写真を載せ、新任職員の挨拶やメニュー表も添えた便りを届け、電話でも細やかに暮らしぶりを伝えている。建物内は清潔に保たれ、常勤看護師の配置や母体法人である医療機関との連携も整備されており、安心できる態勢である。利用者にとって環境の一部となる職員は、優しく親身に利用者に向き合っており、コロナ収束を鑑み、外出ドライブや各種の交流再開を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、地域の中で自分らしく暮らし続ける事を踏まえた理念を作っています。管理者と職員は、その理念を共有し、日々意識してケアにあたっています。	法人事業所共通の理念を踏まえた目標をユニットごとに作成している。職員は、利用者一人ひとりのその人らしい生活はどのようなものか、ケアは何かを話し合い、日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染防止の為、地域との交流は出来ていません。	回覧板で地域の活動状況を手し、運営推進会議で事業所の運営の報告を行い、相互に情報を共有している。現在は資源回収の協力のみだが、感染症収束を見据え、次年度は多目的室を開放してオレンジカフェの開催を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で書面上での開催でしたが、その中で入居者様の日常の様子や事故報告等を伝え認知症の理解を深めて頂くことに努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染予防の為運営推進会議は書面上で行っていましたが今月より地域の方も参加して行いました。	令和4年度の運営推進会議は、書面会議として定期に実施している。事業所の活動やインシデント・アクシデント報告のほか、法人事業室からの情報も加えて議記録に記載し配布している。後日文書や電話で意見を聞き取り、運営に活かす方向にある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市や区の連絡会議も感染対策により中止になっています。市の担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。	行政とは、法人事業室と管理者が職責を分担して対応し、良好な関係を築いてる。月1回利用者状況を報告し、介護認定更新時は電話や来訪時に情報の共有を通して、利用者の安心の生活に向け協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化に関する指針を作成し、身体拘束適正化委員会を立ち上げています。法人内年間研修計画の中には身体拘束研修を必ず設定し、全職員が参加し、意識を持ってケアにあたっています。	身体拘束及び虐待防止については、指針の下、委員会と勉強会を設定し、三原則や禁止内容の正しい理解を深めている。毎月自己チェックシートで身体拘束に係る意識付けを図り、拘束や抑圧感のないケアを実践している。センサー等の使用時も家族の同意を得、定期的に状況や使用確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、法人内で高齢者虐待防止法に関する研修会を年に2回開き(不適切ケアも含む)、理解の浸透に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は法人内部研修に参加しています。現在、必要のある入居者様はならず、その都度検討していただけるような体勢にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は十分な説明を行い同意書にサイン、捺印を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話等で管理者や、職員に気軽に話せる環境を整えています。年に一回、家族アンケートを行ったり、意見箱を設置し意見を頂ける様にしています。	毎年法人主体の無記名アンケートで意向を吸い上げ、全職員で共有している。電話や来訪時、介護計画見直しなどの機会を得て意見を伺い、運営の反映に努めている。隔月の通信には、利用者の様子や写真、職員紹介、メニュー表も載せて状況を報せるとともに、意見表出のきっかけ作りを工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議で意見や要望を伝えたり人事考課の際に自己申告により意見や提案を聞く機会を設けています。	職員は、積極的に意見や提案を述べており、業務の流れ改善に生かしている。ケア面では職員の発案を検討して実施、ふり返ることでより適切なケアの提供につなげている。職員アンケート調査では研修の希望も吸い上げ、質向上や学ぶ意欲を支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価の機会があり、個々の努力や実績を把握し、やりがいや向上心につなげています。希望休も可能な限りとれ、働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修の年間計画(新人、現任、管理者)を立て参加しています。新人職員は、新人研修マニュアルに沿って指導をしています。法人外でも、職員一人ひとりの力量に合わせ、高齢者虐待防止推進研修等に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染予防の為南区の管理者連絡会議は行っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成者が可能な限り事前訪問をし、ご本人、ご家族と面談をして生活状況を把握し不安なこと要望等をお聞きし安心して頂けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、ご本人にどのような生活を送ってほしいかなど、要望等を聞き、信頼関係を作れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ご本人、ご家族の思いや、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含め、ケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主役が本人である事を職員間で認識し本人の出来る事に着目し無理のないように行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切に、共にご本人を支えていく関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウィルス感染防止の為、健康状態確認などを行ったうえでの面会を行っています。	自由な面会は困難な状況だが、手紙やメッセージカードのやり取り、電話の取り次ぎや携帯電話の操作サポートで、利用者と家族の関わりを大切に支援している。事業所内では職員が一番の馴染みであり、週1回のリハビリ担当職員も顔馴染みとなり、安心できる関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格や趣味などを職員が理解し、入居者様同士が交流を持てるように日々のお手伝い等の役割分担での声掛けをし入居者様同士が関われるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご本人、ご家族のお話を聞き、フォローしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの中での言動により、何を望まれているかを感じ、訴えが少ない方でも行動や表情から考えられる思いをくみ取り把握に努めています。また、アセスメント時にもご本人の希望を伺っています。	一緒に過ごす中で、職員の問い掛けから思いがけず今の気持ちを理解することもあり、柔軟な着想で表情や仕草、言葉の裏にある本意の汲み取りに努め、家族の情報も加えて、好きなことや望んでいることなどを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に生活歴等をお聞きし、なじみの暮らし方、生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、変化や新しい発見があった時は記録に残したり申し送り等で職員全員が把握するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医師、看護師、栄養士等の意見、アイデアを反映させたプランを作っています。また、必要に応じ、随時カンファレンスを開きモニタリングを行い現状に合ったプランにしています。	介護計画作成には全職員が関わり、その実践は毎日記録で確認、定期のモニタリングで評価を行っている。見直しの際は事前に把握した本人、家族の意向、医療関係者の助言を踏まえ、好きなことやしたいこと、心身の状況に視点を置いて現状のニーズを導き出し、より良く生活するための目標を掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアプランの実践結果、気づきを介護記録に記入しています。それをカンファレンスで職員全員が共有し、ケアプラン作りに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じた通院等、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域との関わりができていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される医療機関で受診して頂いています。かかりつけ医には、必要に応じてご本人の体調や様子を報告し関係を築きながら適切な医療が受けられるようにしています。	契約時に確認した希望の受診先を支援している。事業所と法人事業室に看護師が配置され、何時でも助言や指示を得られている。月2回の訪問診療や家族対応で専門科医の受診があり、情報は関係者間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理相談での看護師のアドバイスと合わせ、看護師1名が常駐しており、迅速なアドバイスを受けることができ、適切な受診につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療が出来るようにご本人の情報を提供しています。早期に退院できるように、ご家族、医療連携室の方と、情報の交換に努めています。退院時カンファレンスに参加し退院後の病状に合わせた生活を送れるよう対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」として説明を行い理解して頂いています。医療機関との連携を構築し、終末期に向けた支援体制を整備しています。	入居の際に、重度化や終末に係る対応について説明し同意を得ている。状態変化の過程で、家族や医療関係者と今後の方針を話し合っている。終末期では、職員の不安感にも配慮して態勢を整えており、本人、家族が望む支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修を行いました。急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応のマニュアルを作成しており、実践につなげています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災のマニュアルを作成しており、防火訓練は統括本部の防災担当課長の指導の下、年2回(12月、6月)職員全員参加し、職員と入居者様で避難経路と避難場所の確認を行いました。非常用備蓄品・避難持ち出し用品を用意しています。	法人職員である元消防署員の立会いの下、年2回、夜間を想定した火災避難訓練を実施し、利用者も参加している。水や食料、各種の備蓄品を準備し、防寒対策も講じている。	コロナ禍により、町内会との交流が滞っている。前回の課題を継続し、参集で行われる運営推進会議の活用により、非常時における地域との協力体制の再確認等の取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員としての研修を受け、常に入居者様本位のケアを心がけています。ご本人の気持ちを大切に考えた言葉かけをしています。	利用者の人格尊重を謳った法人理念の下、職員は接遇研修に参加し、実際時の適切な姿勢を学んでいる。気になる言葉使いは、職員自らが不適切と気づくことも多くあり、事業所内での意識啓発が深まっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、起床時間、就寝時間、洋服選び、飲み物のご希望をお聞きしたり、行事参加も入居者様に合わせて声かけをしご本人に決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気分や気持ち、体調に配慮しながら、ご本人のペースを大切に、ご希望にそって過ごして頂けるように努めています。(食事、就寝起床時間、散歩、入浴、テレビ番組の選択等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、一人ひとりに合わせた身だしなみやおしゃれが出来るよう声かけをしています。出来ない方にはお手伝いをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や年中行事の際は行事食を用意し雰囲気作りに努めています。	栄養管理の行き届いた食事で、利用者の嗜好を反映し、食事作業も一緒に行っている。嚥下や疾患に応じ形態変更や代替食を用意している。月1回のお弁当の日、すき焼きをしたり、生寿司やピザも取り寄せやテイクアウトをし、満足感や食の変化を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた栄養バランスの良い食事を食べて頂いています。1日を通じて水分確保できるように表に記入し毎日個人データ表に転記しています。好みや嚥下状態などに合わせお粥も提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂いています。一人ひとりの力に応じて、声かけや、見守り、お手伝いをして口腔ケアをしています。定期的に歯科医の口腔ケアを受けている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちよくトイレで排泄が出来るよう支援しています。尿意便意の訴えがない方には時間を見てお誘いし、清潔を保てるように努めています。	トイレでの自然な排泄を大切に支援している。見守りでの自立排泄や二人介助、ベッド上でと、安全に無理なく排泄ができるよう状態に応じた支援をしている。失敗した時は羞恥心に十分注意し、リハパンを着用する状況では家族とも相談し、スムーズに移行できるよう対応を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師、薬剤師と連携を取り、便秘対策を行っています。日々の体操や食物繊維の多い食材等で便秘予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人のご希望を聞き入浴して頂いています。入浴剤を選んで頂き、香りや色でリラックスして頂いています。又、身体状況に合わせてリフト浴等も行っています。	週2回の入浴を基本に、洗身は本人に任せて、できない事を手助けしながら、安全な保清に努めている。1階にリフト浴槽があり、重度の人も湯舟にゆっくりと浸かることができている。その時の気持ちも大切に、拒否のある時は無理強いをせずに対応し、入浴剤の用意で色や香りを楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活のペースで休息、就寝して頂いています。安心して眠れるよう、不安の訴えや独語がある方には声かけをしたりお話を傾聴しています。眠りやすい環境(居室の灯り、温度、湿度、音)を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬について、処方情報から職員は理解をしています。服薬マニュアルに沿って服薬して頂き、症状に変化が無い確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが好きなことや得意なことが活かせるようにアセスメントし、行って頂くことで気分転換にもつながっています。(散歩、体操、ことわざ、パズル、掃除、入浴、読書、等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防のため、病院受診以外でのご家族様との外出は行えませんでした。4月から外出もできるようになりました。	令和4年度は、家族が付き添った受診外出のほか、近隣の公園や車窓からの桜見物くらいであった。今後は、感染状況を見据えながら、以前のようなドライブなどの外出支援に取り組みたい意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と協力して声の聴きたいときに気軽に掛けられるように支援しています。ご家族やご友人からの電話や、ホームから連絡がある時はご本人とも代わりお話しして頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、清潔保持を心がけ、リビングには花を飾り、季節を感じて頂けるよう工夫をしています。本人のクッションや膝掛けを使用させて頂いています。職員が業務で発する音、会話等、入居者様に不快感をあたえてしまう音が無いよう配慮しています。	共用空間は、華美にならない装飾を施し、その都度季節や行事に合わせた飾り付けを行っている。外出に代えて体操やレクリエーション、利用者と貼り絵制作、家事作業もできる事を一緒に行って、心身の機能維持と事業所での居場所感を大切にしている。気になる刺激に配慮し、快適で落ち着いて過ごせる環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他に、ソファを配置し、他入居者様と話したり、ゆっくりとテレビが見れるようにしています。又、リビングから離れたところに椅子とテーブルを配置し、一人で過ごす場所もあり、利用して頂けるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら家具やベッドなど使い慣れたものや好みのもの、使い心地の良いものを持ってきて頂いています。写真や趣味のものを飾ったり、居心地よく過ごせるように工夫をしています。	収納スペースを備えた居室は、それぞれに壁紙が違い、自室が分かりやすくなっている。ベッドやテレビ、一人掛け椅子などが自宅から持ち込まれ、家族写真や楽器等の趣味の物も手元に置かれてある。状態変化の兆しがあれば、家具や足元を整理し、安全に居心地の良い居室を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて居室、トイレに名前を付したり文字の大きな日めくりカレンダーを目に入りやすい場所に設置するなどの工夫をしています。		